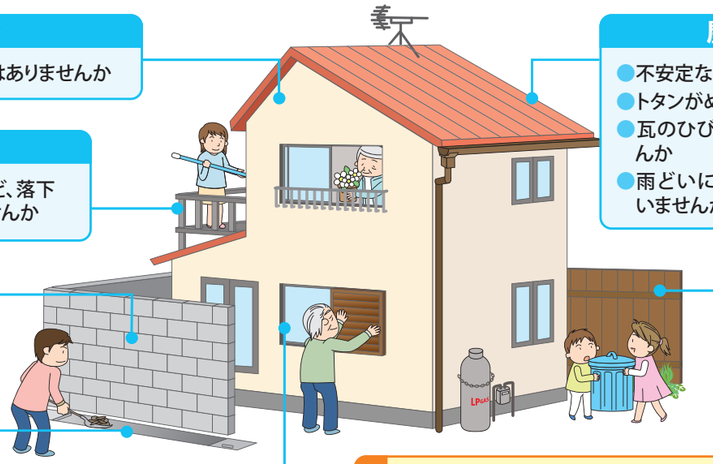
風水害への備え

台風や大雨による被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



外　壁
- モルタルの壁に亀裂はありませんか

ベランダ
- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

ブロック
- 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

排水溝
- 側溝や雨水ますにゴミや土砂はありませんか

窓
- 窓枠にがたつきはありませんか
- 雨戸にがたつきはありませんか

屋根・雨どい
- 不安定なアンテナはありませんか
- トタンがめくれていませんか
- 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
- 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていませんか

板　塀
- 板塀に腐りや浮きはありませんか
- 板塀に支柱はありますか

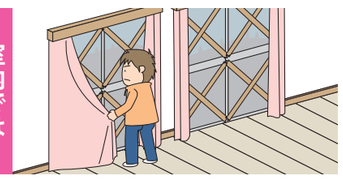
その他
- ガスボンベは固定していますか
- 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
- ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- 庭木には添え木をしていますか
- 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

風が強いとき・大雨のとき

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。
雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、市区町村などからの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

■風が強いとき

室内では

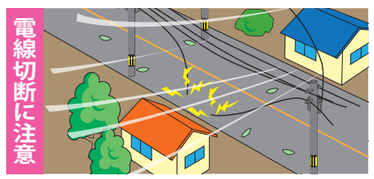


- 風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
- 外側から板でふさいだり、内側からガムテープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。

路上では

- 看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。

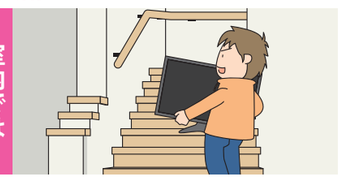
電線切断に注意



- 電線が切れたり、瓦や物が飛んでくる危険があるので、無理に避難せず屋内にとどまりましょう。

■大雨のとき

室内では



- 床下、床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
- 地下には避難しないようにしましょう。

車の運転中は

- 豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに高台に移動しましょう。
- 浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。

河原では

- 急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。
- 雨が降っていなくても、サイレンなどの警報が聞こえたら、すぐ避難しましょう。

雨の強さと降り方（1時間雨量）

10～20㎜未満	20～30㎜未満	30～50㎜未満	50～80㎜未満	80㎜以上
やや強い雨	**強い雨**	**激しい雨**	**非常に激しい雨**	**猛烈な雨**
地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。	土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小河川の氾濫や、がけ崩れの心配もあります。	山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほどの激しい雨です。	息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

大雨・洪水に関する注意報・警報

次のような場合に、気象庁から「注意報」「警報」「特別警報」が発表されます。

大雨・洪水注意報

災害が発生するおそれがある

- **大雨**　大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。
- **洪水**　大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨・洪水警報

重大な災害が発生するおそれがある

- **大雨**　大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。
- **洪水**　大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨特別警報

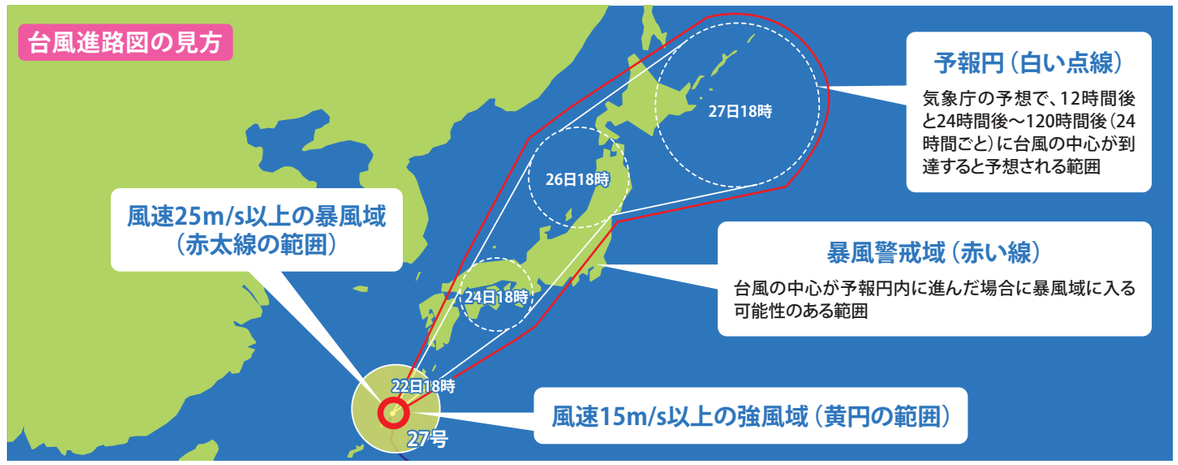
警報よりもはるかに高い危険度

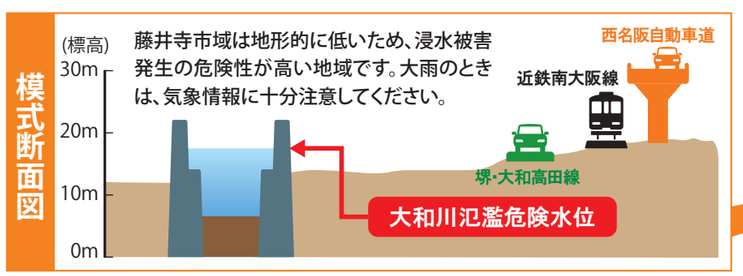
- **大雨**　台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨になると予想したときに発表。

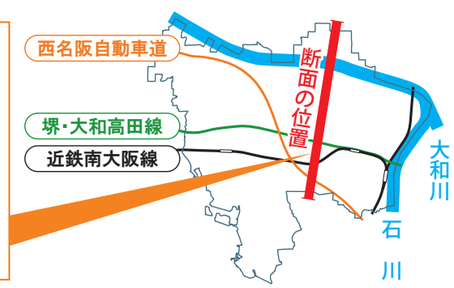
※「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

台風が近づいたら 気象情報に注意

台風はその襲来時期や規模、被害の程度などの予想が可能なため、事前の対策次第で被害を軽減することができます。台風が近づいたら、気象情報に十分注意し、適切に対応しましょう。







避難の種類（立退き避難・屋内安全確保と緊急安全確保）

水害や土砂災害の避難行動は、ためらわず災害リスクのない安全な場所へ早めに**「立退き避難」**することが基本です。また、家屋倒壊等氾濫想定区域に含まれておらず、浸水しない階がある場合は、上層階に留まる**「屋内安全確保」**により身の安全を確保することも有効です。ただし、水や食料は十分用意しておいてください。
立退き避難を行う必要があるにもかかわらず、適切なタイミングで避難することができなかった場合などは、少しでも浸水しにくい高い場所やがけから離れた場所に避難し、身の安全を可能な限り確保する**「緊急安全確保」**を行ってください。

気象情報や避難情報に注意し、早めの避難を心がけましょう。

計画的な避難行動

立退き避難

行政が指定した避難所へ

非常持出し品を持っていきましょう。

詳しくは8ページへ

安全な親戚・知人宅へ

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

安全なホテル・旅館へ

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

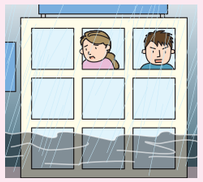
屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。
①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
②浸水深よりも高い場所にいる
③水が引くまで我慢できる

※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。

避難所に行くことだけが"避難"ではありません。状況に応じて安全なところに避難しましょう。

緊急的な避難行動



緊急安全確保

- 逃げ遅れた場合の行動です。
- 身の安全を確保できるとは限りません。

避難のポイント

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

状況により、すばやく避難しましょう。

避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。

浸水時、自動車での避難は危険

普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。

浸水時に長靴は厳禁

避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。また、素足での避難は大変危険です。

家族には連絡メモを残そう

外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくと良いでしょう。

防災メモを持とう

高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。

声のかけ合いと助け合い

子どもや高齢者の避難には誰かの手助けが必要です。常に声をかけ合い、助け合う地域の輪、人の和で、みんなの安全を守りましょう。

持出し品は最小限に

非常持出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

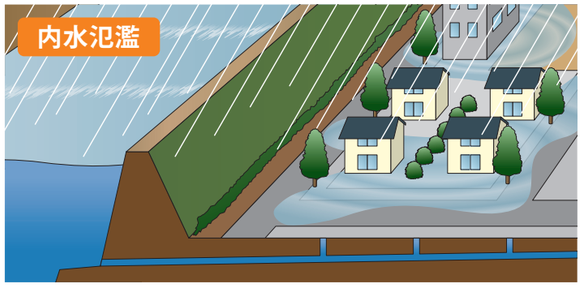
詳しくは8ページへ

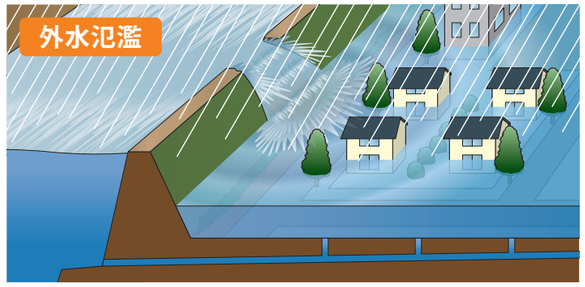
安全なルートで避難

避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、出来るだけ安全な広い道を選びましょう。

内水氾濫と外水氾濫

水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こる氾濫（内水氾濫）と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫（外水氾濫）があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。





その場で雨が降っていなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。

雨水ポンプ場について

藤井寺市では、大雨時に落堀川に流入してくる大量の雨水をポンプ場に引き入れてごみを取り除き、大型ポンプで強制的に大和川へ排水しています。
大雨によって大和川の水位が高くなると、堤防の決壊を防ぐため、やむを得ずポンプの運転を止めることがあります。これにより、内水氾濫や落堀川の氾濫が発生するおそれがあります。

避難行動判定フローを確認しましょう

「避難行動判定フロー」をハザードマップとあわせて確認し、居住する地域の災害リスクや住宅の条件等を考慮したうえでとるべき避難行動や適切な避難先を確認しておきましょう。

ハザードマップは21ページ以降に掲載

平時に確認

■避難行動判定フロー　あなたがとるべき行動は？

ハザードマップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは浸水が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

- いいえ → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地などにお住いの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。
- はい ↓

災害の危険があるので、**原則として、立退き避難（自宅の外に避難）が必要**です。

- 例外 → **■浸水の危険があっても、次のような場合は屋内安全確保（自宅に留まり安全確保をすること）も可能です。**
  - ▶洪水により家屋が倒壊、又は、崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
  - ▶浸水する深さよりも高いところにいる。
  - ▶浸水しても水・食糧などの蓄えが十分にあり、水が引くまで我慢できる。

ご自身、または、一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

- はい ↓

安全な場所に住んでいて身を寄せられる友人や知人はいますか？

- はい → **警戒レベル3（高齢者等避難）**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。（日頃から相談しておきましょう）
- いいえ → **警戒レベル3（高齢者等避難）**が出たら、**指定避難所や安全な避難先**に避難しましょう。

- いいえ → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる友人や知人はいますか？

- はい → **警戒レベル4（避難指示）**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。（日頃から相談しておきましょう）
- いいえ → **警戒レベル4（避難指示）**が出たら、**指定避難所や安全な避難先**に避難しましょう。